

溝上 慎一の教育論(動画チャンネル) No13(溝上のぶつぶつ)

#9 高校学びフォーラム振り返り ーカリキュラム・マネジメントの中核柱としての探究的な学習

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 教授

<http://smizok.net/>
E-mail mizokami@toin.ac.jp

学校法人河合塾 教育研究開発本部 研究顧問

【プロフィール】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、准教授、教授を経て、2018年に桐蔭学園へ。2019年同理事長、現在に至る。桐蔭横浜大学学長（2020-2021年）。京都大学博士（教育学）。

※本動画チャンネルは溝上が個人的に作成・提供するものです。
公益財団法人電通育英会の助成を受けて行われています

無料

第3回 高校 学びフォーラム

探究的な学習から生徒主体の学習を考える

10/30²⁰²² Sun.

10:00-15:30

当日のプログラム

9:00 -	受付開始
9:30 - 9:50	オープニングセッション
9:30 - 9:35	開会挨拶 (司会) 澤上 慎一 (熊鷹学園理事長・熊鷹横浜大学教授)
9:35 - 9:50	参加者同士の自己紹介・アイスブレイク
9:50 - 12:15	シンポジウムセッション【探究的な学習から生徒主体の学習を考える】
9:50 - 9:55	島督説明 司会・モデレーター：澤上 慎一 (熊鷹学園理事長・熊鷹横浜大学教授)
9:55 - 10:15	10:15 - 10:35
 「社会に開かれた教育課程」から主体的に学ぶ意味を考える <small>熊鷹横浜大学 准教授 熊鷹教育研究科 准教授</small> 松澤 麗子	探究から探究へ—学びを深めるには— <small>熊鷹横浜大学 准教授 熊鷹教育研究科 准教授</small> 石井 純一
 深まる広がるつながる学び—SSH創成期の学校で考えたこと— <small>熊鷹横浜大学 准教授 熊鷹教育研究科 准教授</small> 石原 穂子	保健体育と探究的な学習の時間の接続の可能性 <small>熊鷹横浜大学 准教授 熊鷹教育研究科 准教授</small> 佐藤 豊
11:35 - 12:15	質疑&ディスカッション
12:20 - 13:30	ランチ交流タイム
12:20 - 12:25	参加者同士のリフレクション
12:25 - 12:35	熊鷹横浜大学の教育実践紹介
12:35 - 13:30	昼食 (お弁当もご用意します)
13:30 - 15:00	基調講演セッション
 問いを立てるといふこと—そもそも何のための探究的な学習か— <small>熊鷹横浜大学 准教授 熊鷹教育研究科 准教授</small> 苦野 一徳	数字者・教育者系、熊鷹横浜大学大学院教育研究科准教授、熊鷹横浜大学大学院教育研究科博士課程修了、博士(教育学)、書籍にどのような教育が「よい」教育か(講義)、「学校」はつくります!(河出書房)、「時間としての教育者」(日本評論社)など。
15:00 - 15:05	閉会の辞

事前予習動画 (参加者限定公開)：当日までに動画をご覧になってご参加ください。



高校で学習パラダイムへの転換を促す探究、そして習得・活用・探究の学びの過程へ



やる気スイッチを入れる探究の作り方



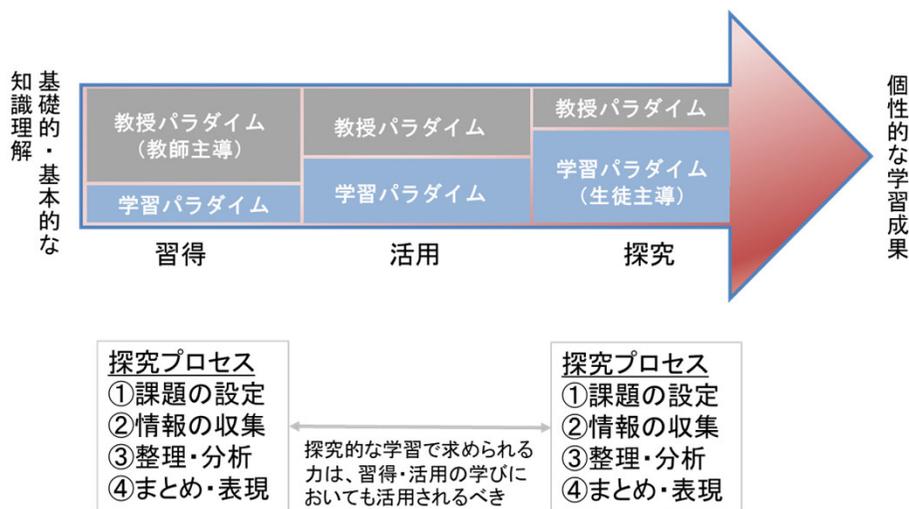
(上) シンポジウム (午前)
(左) 基調講演



リフレクション1 (シンポジウム)

「探究的な学習から生徒主体の学習を考える」

- カリキュラム・マネジメントとしての探究的な学習



→教科横断、地域連携すればカリキュラム・マネジメントではない。学校教育目標に基づく学習のカリキュラム的組織化
 →探究のための探究にしない



- 松澤直子 (神奈川県教育委員会 指導部高校教育課 専任主幹)
「『社会に開かれた教育課程』から生徒主体の学習を考える」
- 石井純一 (茨城大学全学教職センター 特任教授、もと茨城県立水戸第二高等学校校長)
「探求から探究へ—学びを深めるには」
- 石原徳子 (神奈川県立多摩高等学校 総括教諭)
「深まる広がるつながる学び—SSH創成期の学校で考えたこと」
- 佐藤 豊 (桐蔭横浜大学スポーツ健康政策学部 教授、教職センター長)
「保健体育と探究的な学習の時間の接続の可能性」

- 大人・教師こそが探究すべきでは！
 - 生徒といっしょに考えられる教師
 - 小学校・中学校・高校版でいいが、求められる教師の研究力
- 探究的な学習のテーマについて
 - 「部活動をもとにしたテーマもあっていいのでは？」
- 保健・体育科目で扱う学習内容が探究的な学習のテーマにもなることが多い（運動、スポーツ、健康など）
- 高校で成果を出さないといけない
 - 中学校からの移行、大学等への移行も考慮する
 - 小学校の探究でもなかなかすごい！
 - 小中学校、大学からの参加者

リフレクション2 (基調講演：苦野一徳先生)

- 学びのそもそも論を超えて、民主主義社会に立脚したそもそも論
「自由の相互承認」
- デューイの「探究」
→「総合的な探究（学習）の時間」に限定されない
- 「総合的な学習の時間」に対する「総合的な探究の時間」の特徴は？
→教養主義的な探究

(学習指導要領の説明)

- 小学校・中学校・・・自己の生き方を考えるため
- 高校・・・自己のあり方、生き方を考えるため

→ウェルビーイング

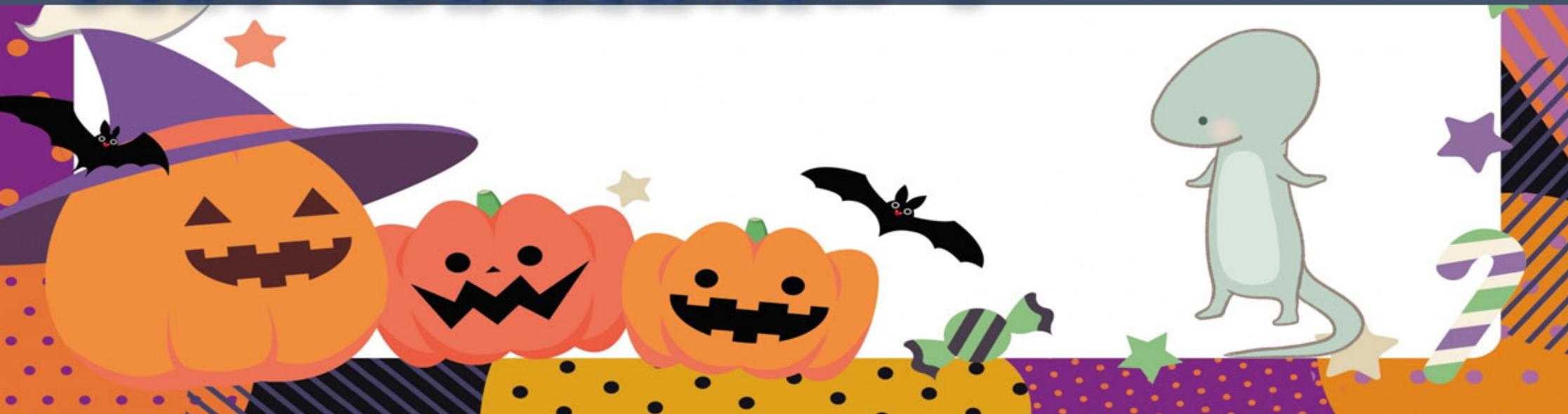


「問いを立てるということ
—そもそも何のための探究的な
学習か」



No13(溝上のぶつぶつ)

#7 探究的な学習が高大接続の共通項 となり教養教育ともなる？ 高校でも教養教育か？



ご視聴有難うございました
チャンネル登録をお願いします

質問、コメントは個人メールで受け付けます。
E-mail mizokami@toin.ac.jp

- お名前、ご所属

※可能なら専門分野や教科、職位なども教えてください、回答の助けになります。
なお、動画内では個人のお名前等は出しません。

- 質問、コメント等

